

---

宮 嶋 怡 正

議長（村松 積） 次に、4番、宮嶋怡正君、質問を許します。登壇願います。

4番、宮嶋怡正君。

4番（宮嶋 怡正） 4番、宮嶋怡正です。

私は、先に宮嶋清伸議員より、高齢者の方々の老人医療費負担分の軽減について、質問の趣旨がほぼ同じ内容であるということで、私の質問の後に答弁をとということのご配慮をいただきありがとうございます。

下條村は、村長のリーダーシップの下、行財政改革や合併浄化槽、いち早い導入など、また村独自の材料支給事業など積極的に推し進めていきまして、その結果として、村の財政状況を示す実質公債費比率3.5%と県下ではここ数年トップクラスということで、これも村長の思いを村職員及び村民の皆様方の理解と協力があったからこそできたことだと思います。そして一般会計分基金残高が、20年度は32億円あまり、21年度は37億円あまりと1年間で5億円ほどの基金の伸びとなっております。

若者定住、子育て支援策など、下條村はかなり充実されてきていると思います。長年にわたって下條村を支えてきていただいた高齢者の方々を支援する施策として、宮嶋清伸議員は先ほどの質問の中で、老人医療費の個人負担分の半額補助の提案がありましたが、私はもう一步踏み込んで、村の施策として高齢者の方々の老人医療費の個人負担分の7割補助を行うべきだと私は考えますが、村長のお考えをお聞きいたします。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

村長（伊藤 喜平） お答えいたします。

まだ何も決まらないうちに5割だ、7割だなんていう言葉が飛び交います。これはありがたいことで、それだけ基金があるじゃないかということでございますけれども、そう簡単にいかないというのがこの世の中でございまして、先ほども申しました。私どもは、今まで若者対策についてはまだ足りませんけれども、徹底してやっております。若者対策は私は高齢者対策の1つであろうと思います。若者定住対策をすれば村が元気になります。後継者もできます。そうすれば、お年寄りも元気な村、後継者のある村ということになると、心が非常に安心するわけでございまして、そういうことで今までやっております。

さて、そいじゃそのままでいいかということでございますけれども、今議会の大半の皆

さんもそろそろそれに手をつけるということでございます。障害があるというのは、これは下條村がこういうものをやるということになると、今のどっかの政党と同じで1年やって2年目にはおかしなことになってしまっただけは困るわけ。これは恒久的にやらなければならない。これが1つ。これは問題クリアしておると。

もう1つは先ほども広域連合の中で、本当に腹藏のない、腹を打ち分けた話の中で、南信州広域どうするかというリーダーたちのこのスキンシップというか、ネットワークが必要なんですけれども、そのときになかなか大変な村もあります。大きな市もあります。これをやったときにどういう反応が起きるかということ。今、日ノ出町もやっております。75歳以上、3年以上居住する者とかいうことでやっており、自分で金を払ってそしたらその領収書もってきて、全額やっております。全額やっておるということは、全然財政力指数が違うわけでございます、私たちは交付税を地方交付税を半額いただいております。まだ、地方交付税不交付団体、この中でもほとんどというかやっていないという施策でやります。

パフォーマンスでやるということになると、下條村はパフォーマンスはもう必要ないと思います。さりとて、そろそろやらなければいけないということでございまして、今これからいろいろ調整をしながら、前向きに検討していくつもりでございます。

5割だ、7割だ、5割くらいはいくらか切るんですが、さらに7割だという勇敢な提案もございました。やはり自分の村だけが良ければいいといいもんでなくて、そんなに金があるんならということで、いろいろの補助金の中でちょっと下條村もうちょっと遠慮してもらえよというような、今なかなか一括補助金がきて、広域の中で公平公正にトップが出なし審議するようなことがあるわけございまして、そんな面でも相当影響があると思いますので、その単純なその区費がだいぶ余ったで分けて飲んじゃおうかというようなわけにはいかないけれども、前向きな考えることは確かでございますので、今までの先入観を捨ててどのくらいの数字が出るか、私どももまた皆さんそれぞれ相談すべきは相談してやっていきます。

ちなみに老人医療費、高齢者負担が5億5,000万円くらいあります。この1割としても5,500万円、食代抜くわけで4,400万円くらいでございますけれども、金額としては4,400万円でございます。

これ飯田市にやられたらどうなるかと。必ずどっかがやると全部大騒ぎするわけでございますし、「下條やったじゃねえか」と。そうするとトップも「あのやろう」とこれが心情でございます。そこらも大人の考え方。自分があるって周りがあるんでなしに、周りと一緒に協調しながら進むということも、これから下條村のおかれている節度のある態度であろうかと思しますので、ぜひ議員という立場でまたひとつご指導いただければ幸いです。

以上で終わります。

議長（村松 積） 4番、宮嶋怡正君、再質問ありましたら。

4番、宮嶋怡正君。

4番（宮嶋 怡正） ただいま、村長より前向きに検討をする、周りの状況を見ながら協調しながらというお話しいただきました。

議会としまして、5月の確か12日だと思います。全員で勉強会をいたしました。絞った宿題といいますが、これが高齢者の医療費の軽減に向けてどうするかという勉強会がありました。

下條村は協調、村長は今までやってきたことは自分の良しとしたことをリーダーシップを発揮して、飯田下伊那のリーダーたる施策をやってきて、今ここまで上り詰めて、全国からも一番注目をされる村になったと私は思っております。

さらに注目をさせてもらうため、注目を浴びるといいますが、これだけの財政基盤もあります。12月の議会で、基金残高どのくらいが適当かという質問の中で、「1年間の予算規模当たりが適当だろう」という答弁がありました。大きくそれを上回っている現実の中で周りの協調も大事でしょうが、下條だからできるという施策をぜひとも村長には英断をもって取り組んでいただきたいと思います。

議長（村松 積） 思いますではあと質問ですか。

4番（宮嶋 怡正） そのことについて答弁をお願いいたします。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 議会で相談されたそうでございます。

議会のフィーリングとやはりトップ会談常に重ねておる我々とは相当違います。それ以外のことは、今までの答弁の中で微妙なところまでお答えしたつもりでございます。決し

て下條村は、これ以上にそんなにパフォーマンスしなくてもいいんじゃないかと思います。

以上です。

議長（村松 積） 4番、宮嶋怡正君。